unicef Teachers' Network通信

T・NET通信

2007 AUTUMN

No.37

発行
財団法人　日本ユニセフ協会　学校事業部
〒108-8607　東京都港区高輪4-6-12　ユニセフハウス　TEL:03-5789-2014　FAX:03-5789-2034　Email: se-jcu@unicef.or.jp
ホームページ　http://www.unicef.or.jp　募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・（財）日本ユニセフ協会・手数料免除

異常気象の影響を受ける子どもたち

地球規模での「異常気象」が問題となっています。世界気象機関（WMO）は8月、2007年前半に世界各地で記録的な異常気象が起きていると報告しています。主な原因とされる「地球の温暖化」については、世界的な問題として今年6月にドイツで開催されたG8サミットでも議題に取り上げられました。今後さらに国連や国際社会で協議が続けられ、対策が講じられていきます。

干ばつなどによる食糧不足で子どもは深刻な状況に追い込まれる（ケニア）
©UNICEF/HQ06-0024/Sara Cameron

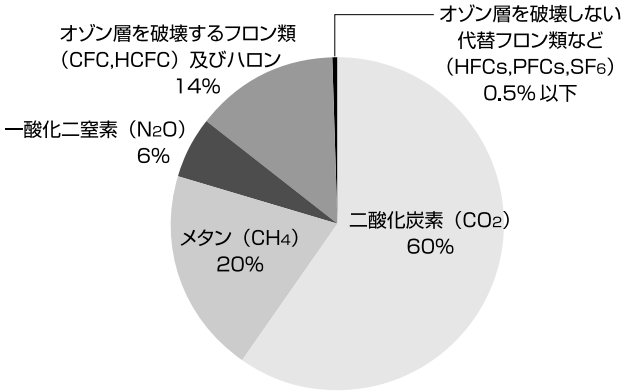
人為的な要因による地球の温暖化

地球が太陽から受けるエネルギーの一部は宇宙空間に放出され、人間が住みやすい環境が維持されています。ところが石油や石炭などを使用する産業活動で大量に排出された二酸化炭素などの温室効果ガスの働きによって、気温が上がる現象が「地球の温暖化」です。排出されているガスの詳細は［**表1**］の通りです。

電化製品、車の排気ガスなど、私たちは毎日の生活の中で直接・間接に温室効果ガスを排出し温暖化を促進しています。

衛生的でない水は下痢などの原因となり、子どもの命や健康をおびやかす（ケニア）
©UNICEF/HQ06-0177/Michael Kamber

表1　産業革命以来、排出された温室効果ガス



出典：全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト

異常気象で子どもが受ける影響

世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）が共同設置している「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」によると、「異常気象は増加傾向にある。気温上昇に起因する現象が増えており、さらに増加する可能性が高い」と報告されています。自然災害によって、これまでにも多くの子どもたちがきびしい状況に追い込まれてきました。異常気象の拡大によって［**表2**］のような事態が懸念されます。

表2　異常気象と子どもへの影響

大規模な自然災害	
予想される現象	熱波、干ばつ、豪雨、ハリケーン、洪水、大雪、寒波などが各地で大規模に発生する。
子どもが受ける影響	生存にかかわるさまざまな影響がある。干ばつによる水や食糧の不足、洪水による不衛生な水が媒介する病気のまん延など。
温帯地方の気候の熱帯化	
予想される現象	現在の温帯地方で、熱帯地方の病気が広がる。
子どもが受ける影響	マラリアやデング熱などが拡大し、健康や命がおびやかされる。

洪水で被害を受けた家族。わずかに残された場所で食事をつくる（バングラデシュ）
©UNICEF/Bangladesh 04-05/Abir Abdullah

影響を受ける子どもへのユニセフの取り組み

ユニセフは蓄積してきた経験を活かし、ユニセフの活動目標でもある『ミレニアム開発目標*1』実現のために、日々努力しています。その取り組みの中で、［**表2**］に示した異常気象が及ぼす子どもへの影響に関して、「安全な水と衛生」、「マラリア対策」などで重要な役割を果たしていきます。

安全な水と衛生

安全な水の確保は健康や生活の改善と密接に関係しており、ミレニアム開発目標のひとつである「持続可能な開発*2」の具体的な目標となっています。現在、約10億人が安全な水を使えず、そのうち約4億人が子どもです。また、約26億人が衛生的な設備を持っていません。こうした状況下で洪水などが大規模に発生した場合、多くの子どもが不衛生な水で下痢やコレラ、赤痢などを引き起こすことがあります。子どもの健康を守るために安全な水や衛生が不可欠です。そして不衛生な水は使わない、浄化した水を使うなどの衛生知識も大切です。ユニセフは通常の事業で政府や協力機関と共に、コミュニティが主体となって安全な水を管理する取り組みや、低コストで衛生改善をはかるための支援を推進しています。例えば、コミュニティで女性に衛生教育を行うことは子どもの命を守ることになり、子どもたちが学校で安全な水や衛生の知識・習慣を学ぶことは家族の健康的な生活につながります。

ユニセフは緊急事態の時には、国連機関の中で安全な水や水の浄化剤の提供、簡易トイレの設置などの役割を担っています。

マラリア対策

マラリアは多くの子どもの命をおびやかしています。アフリカでは30秒に1人、子どもがマラリアで命を失っています。マラリアを媒介する蚊は不衛生な状態の水で発生する場合もあるので、安全な水の確保や生活の改善が大切です。

マラリアによって妊娠中の女性は免疫力が低下するために出産が危険な状態になったり、子どもが低体重で生まれる恐れがあります。低体重は乳児が命を失う主要な原因です。ミレニアム開発目標では、「2015年までに5歳未満児の死亡率を3分の2減少させる」、「マラリアおよびその他の主要な疾病の発生を2015年までに阻止し、その後の発生率を下げる」という目標が掲げられています。その対策のひとつとして、ユニセフは防虫剤処理が施された蚊帳の使用を広めています。

ミレニアム開発目標は、現在のままでは目標とする2015年までの実現はむずかしいとされており、さらなる理解と努力がもとめられています。

＊1　2000年9月に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言に示された課題と、90年代に採択された国際開発目標を共通の枠組みとしてまとめたもの。T･NET通信33号、36号で一覧表を紹介。

＊2　環境と開発を共存し得ることと捉え、地球環境を保護し将来も発展し続けることが可能な開発をめざす取り組み。「持続可能な開発」は、1992年、ブラジルで開催された「国連環境開発会議（地球サミット）」のテーマ。

マラリア対策には防虫効果のある蚊帳の使用が有効（エチオピア）
©UNICEF/HQ05-1286/Indrias Getachew